

病床機能別の集計結果の概要

(単位:床)

構想区域	医療機能	平成30年 (2018年) (7月1日現在)	令和元年 (2019年) (7月1日現在)	※ 【参考】	【参考】
		病床機能報告 (稼働病床数) A	病床機能報告 (稼働病床数) B	増減 B-A	平成37年 (2025年) 地域医療構想 における 必要病床数 C
中北	高度急性期	1,083	1,125	42	403
	急性期	1,796	1,556	△ 240	1,353
	回復期	459	744	285	1,227
	慢性期	1,494	1,323	△ 171	1,161
	計	4,832	4,748	△ 84	4,144
峡東	高度急性期	0	0	0	48
	急性期	761	703	△ 58	279
	回復期	732	890	158	978
	慢性期	427	296	△ 131	419
	計	1,920	1,889	△ 31	1,724
峡南	高度急性期	0	0	0	0
	急性期	307	309	2	78
	回復期	0	0	0	102
	慢性期	143	145	2	83
	計	450	454	4	263
富士・東部	高度急性期	17	17	0	84
	急性期	757	726	△ 31	318
	回復期	174	255	81	259
	慢性期	127	77	△ 50	117
	計	1,075	1,075	0	778
総計	高度急性期	1,100	1,142	42	535
	急性期	3,621	3,294	△ 327	2,028
	回復期	1,365	1,889	524	2,566
	慢性期	2,191	1,841	△ 350	1,780
	計	8,277	8,166	△ 111	6,909

➢ 医療機能を未選択の病床は含まず。

※ 時点の異なる病床機能報告の数値については、以下の点から、単純に比較すべき性質のものではないと考えられるため、「増減」は「参考」扱いとする。

- ・ 医療機能の区分の基準は定性的なものであり、あくまでも医療機関の自主的な判断によるものであること。